

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



平成 25 年武道振興大会

義家弘介文部科学大臣政務官（右）に決議文を渡す江渡聡徳武道議員連盟副会長

武道のさらなる発展のための 支援・施策を要望

平成25年武道振興大会



決 議

我が国は、明治維新以来、驚異的な勢いで国力を増し、世界有数の経済大国となった。しかし、ここ数年、国力の低下が目立ち、青少年層を中心に倫理道徳の退廃が著しく、規範意識の低下が、国家、社会の将来を暗いものにしつつある。また、一昨年には東日本大震災が発生し、復旧・復興は未だ道半ばである。

そのような折、国は国家再生へ向け、「郷土を愛する心、公共の精神、生命、伝統や文化の尊重」を盛りこんだ教育基本法の改正を実現した。誠に、ご同慶の至りである。

翻って、武道は、国民精神の根源、即ち武士道精神の真髄を基調とする、体・徳・知を一体としてはぐくむ我が国固有の伝統文化で、文武両道、質実剛健を旗印とする国家、社会の平和と繁栄に寄与する人間形成の道である。

よって、ここに、青少年の健全育成を主眼とする、平成二十四年度完全実施の中学校武道必修化を成功させるとともに、武道のさらなる振興発展が図られるよう、左記事項の早期実現を強く要望する。

記

- 一 平成二十四年四月に完全実施された中学校武道必修化が成功するよう、施設、用具、指導者の条件整備をより一層推進すること。



振興大会の様子

二 特に、指導者については、教員養成大学で武道を必修化し、中学校教員採用試験に武道を試験科目として位置付けるとともに、武道学科卒業の新卒教員を積極採用するよう各都道府県教育委員会に働きかけを行うこと。さらに、充実した授業が実施できるような優れた外部指導者を各中学校に配置し、処遇改善を図って、指導に万全を期すること。また、全国一万余校の中学校体育教員を対象とした武道指導者講習会を、関係武道団体の協力を得て、実施すること。授業に当たっては、武道ならではの教育効果が高まる「礼」を重視した指導を徹底すること。これに関わる武道九種目の指導者研修会や指導法研究、指導書作成等、関係団体の諸活動に必要な支援、助成を行うこと。

三 将来の小学校における武道授業の実施へ向け、実践校における実践研究をより積極的に展開し、発達段階に応じた武道九種目の指導法研究を行い、準備を推進すること。

四 全国的な武道の普及振興をより確かなものとするため、全国都道府県立武道館協議会の活動に対する支援と、各都道府県武道協議会の設置促進に必要な支援を行うこと。

五 二〇二〇年オリンピック東京招致を実現させて、武道種目を新しく正式競技化するとともに、武道の国際的普及振興を確かなものとするため、日本武道代表団や武道指導者の海外派遣事業をより一層推進し、必要な支援、助成を行うこと。

六 武道の源流である一千数百年の歴史を有する古武道の保存・継承を図るため、文化財指定について所要の措置を講ずるとともに、必要な支援、助成を行うこと。

七 武道場の整備については、国の補助制度を拡充するとともに、日本武道館の諸施設を更に充実し、将来予定される武道博物館・同図書館の創設も視野に入れた建替計画を推進し、必要な支援、助成を図ること。

以上、武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館三者によって共催する武道振興大会の名において決議する。

平成二十五年三月六日



高村正彦武道議員連盟会長

平成25年武道振興大会（武道議員連盟・日本武道協
議会・日本武道館共催）が3月6日、東京千代田区の
憲政記念館で開催された。

会には国会議員や武道関係者約220名が出席。中学校
武道必修化成功のための一層の条件整備、指導者確保
のための措置、二〇二〇年オリンピック東京招致成功
のための支援などを要望する決議文が満場一致で採択
され、義家弘介文部科学大臣政務官に手渡された。

武道振興大会は定刻の正午、北川
知克武道議員連盟理事・事務局長の
開会宣言で開会した。

主催三団体代表として、はじめに
高村正彦武道議員連盟会長が挨拶に
立った。

「日本人の精神的バックボーンが
武士道であるということは、世界に
よく知られたことです。その武士道
精神を現代に引き継いでいるのが、
武道であります。そこで日本人であ
れば誰でも武道に触れたことがある
という状況にしたいと思い、中学校
での必修化を実現するため、私たち
は長い間、努力してまいりました。

そして、それが昨年4月に実現し
ました。これからはさらに一歩進め
て、武道の真髄に触れられるような
授業が行われるようにしていただい
ければと思います。そのためには武道
の専門家の皆様に、積極的に学校現
場において貢献いただきたい。文部
科学省にはそれを受け入れる学校行
政がされるようお願いいたします。
今後とも武道関係者の皆様のより一層
のご健闘をお祈りします」

次に、松永光日本武道館会長・日
本武道協議会会長が挨拶を述べた。

「私たち日本武道館・日本武道協
議会は、日頃から武道の振興のために
努力してきましたが、特に本年度か
らは中学校における武道が必修とな
り、その授業が好成績を上げながら
浸透していくことを一番の目標とし
て努めてまいりました。今までのと
ころは順調に進んでいるように感じ
ます。

近頃、学校ではいじめの事件が問
題となっています。私たちは武道の
授業を通して、弱い人を助けようと
いう心を持った人間をつくる努力を
してまいります。武道精神が充満し
た日本を作るために、今後ともご支
援・ご協力をお願いします」

続いて、大会決議を江渡聡徳武道
議員連盟副会長が朗読。満場一致の
拍手で採択された決議文が、義家弘
介文部科学大臣政務官に手渡され
た。

ここで安倍晋三内閣総理大臣から
の祝辞文が披露されてから、義家文
部科学大臣政務官が祝辞を述べた。
「本日は武道振興大会が開催され
ることを心からお祝い申し上げます。
武道は我が国固有の文化であり、
自らを律し、相手を尊重する態度を



江渡聡徳武道議員連盟副会長



松永光日本武道館会長・日本武道協議会会長

祝 辞

武道振興大会の御盛会、誠におめでとうございます。

武道は、凛とした気品と洗練された体系を備えた、我が国が世界に誇る伝統文化です。心技体を一体として、技を磨き、心と身体を鍛え、礼節を重んじる武道が、今日、我が国のみならず、広く世界の人々に愛され、親しまれておりますことは、御同慶に堪えません。

第一次安倍内閣において、約六十年ぶりに教育基本法を改正し、教育の目標として、道徳心を培うこと、健やかな身体を養うこと、伝統と文化を尊重することを明記いたしました。これを踏まえ、今年度から中学校教育の場で武道を必修化したところであります。

次代を担う子どもたちが、優れた人間教育力を持つ武道を通じ、身体能力を向上させるとともに、長い歴史に磨かれた武道の精神の深みにも触れ、心身ともに健全に育ってくれることを願ってやみません。また、学校教育のみならず、国内外の多くの方々が武道の真髄に触れ、平和で豊かな社会作りへとつながることを期待しております。

結びに、本日御参集の皆様には、平素から武道振興のため御尽力を賜っておりますことに感謝申し上げます。何卒、今後とも、より多くの皆様の心身の健全な発達のため、そして武道を通じた日本理解や国際親善の増進のため、お力添えを戴きますよう御祈念申し上げて、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

平成二十五年三月六日

内閣総理大臣

安倍 晋二



白井日出男日本武道館理事長



義家弘介文部科学大臣政務官

養う上で、極めて意義のあるものだと思います。武道が子どもから大人まで多くの人々に親しまれているのは皆様の努力の賜物であり、深く敬意を表します。

本年度から中学校の保健体育で武道が必修となりました。文部科学省では全国の中学校で武道を確実に実施し、教育効果を高めるため、条件を整備してまいりました。武道が人間教育としての力を発揮し、心豊かで逞しい日本人の育成につながるよう期待するとともに、円滑かつ安全に実施できるように万全を期してまいります。本日の決議も踏まえ、武道の振興に一層努めていく所存です。皆様方のさらなるご支援とご協力をお願いいたします」

その後、武道9団体の代表者が順番に挨拶し、それぞれの武道の普及振興の現状や課題を述べ、乾杯に移った。乾杯の発声は白井日出男日本武道館理事長が行った。

「昨年の武道振興大会で私は、『今年は武道元年だ』という話をいたしました。文部科学省の報告によると、中学校武道必修化は順調に進んでいるようです。本年はこの武道必修化





武道の振興を願って乾杯

が、さらに一步も二歩も前進するよう、ご協力をお願いいたします。皆様方の本年のご活躍をご祈念申し上げます」

しばし和やかな歓談が行われ、政

界、官界、武道界から集まった出席者たちは、さらなる武道の普及振興について語り合った。そして午後1時、武道振興大会は盛会の裡に終了となった。

◎義家弘介文部科学大臣政務官に聞く

「武道授業に期待する教育効果」

義家弘介文部科学大臣政務官は、祝辞を述べるにあたっての挨拶で、子どもの頃に6年間空手を習っていたことを明らかにした。その後は、*「ヤンキー先生」*として知られたように、荒れた少年時代を過ごしたこともあったが、「戻って来られたのは、子どもの頃に培った武道精神という根底があったからだと思っています」と語った。そんな義家政務官に、中学校での武道必修化に対する思いを聞いた。

「私は第一次安倍内閣のときに、内閣官房教育再生会議担当室長として、首相補佐官だった山谷えり子先生らとともに、なんとか武道を必修化できないものかと検討してきた一人です。

日本の武道が大事にしてきたのは、上手いとか下手とか、勝つとか負けるということではなくて、『態度』だと思うのです。そういう態度というものが醸成される時間が、すべての子どもたちに保証されたということは、非常に意義あることです。

躰しんがというものが揺らいでいる今の時代において、礼節や道徳心といった当たり前のことを、武道の授業を通して、すべての子どもたちに身につけてほしいと思います」

終わりに、武道の指導者たちへのメッセージをお願いした。

「誇りと自信を持って指導にあたり、未来にもしつかりしたものを残していただきたいと思います」

「必修化1年を経過しての現状と課題」

各道代表者インタビュー



全日本柔道連盟
小野沢弘史専務理事



日本相撲連盟
南和文副会長



少林寺拳法連盟
新井庸弘会長



全日本剣道連盟
武安義光会長



全日本空手道連盟
笹川堯会長



全日本なぎなた連盟
佐藤浩市会長



全日本弓道連盟
鹿野伸郎理事



合気会
植芝守央理事長



全日本銃剣道連盟
酒井健会長

◎全日本柔道連盟・小野沢弘史専務理事

柔道はおおむね順調に授業を展開できています。ただ、捻挫などのちょっとした怪我の報告がありますので、研修を積んで事故ゼロを目指して進めていかなければいけないと思います。公認指導者制度を立ち上げたので、その本格的な導入により、地方の指導力向上を目指し、その方たちに、中学校武道授業協力者の研修に関わっていくようになってほしいと思っています

◎全日本剣道連盟・武安義光会長

中学校武道必修化は教育を重点とした普及ですから、やはり一朝一夕ではいけないと思いますが、一般的には順調に良い方向に進んでいると思います。全剣連では、教授方法の参考書や資料を作成し、また学校剣道連盟が中心となって、特に剣道専門外の学校の先生方の講習会を開催するなどして、剣道の素養を持つてもらおう、進めております。

◎全日本弓道連盟・鹿野伸郎理事

現在約20校が弓道を採用しています

す。弓道は飛び道具ということで、事故を心配して採用を控えた学校もあるのですが、実際には大会などでも弓の事故はなく、非常に安全な競技です。また、施設面の問題もあるように思われがちですが、体育館でもどこでもできるのです。弓道は子どもたちには人気があるので、もっと学校に働きかけ、採用校が増えるよう努力していきます。

◎日本相撲連盟・南和文副会長

指導者講習会を開いたところ、相撲に魅力を感じて子どもたちに広めていこうという中学校の先生が想像した以上に多く、嬉しい驚きを感じました。稽古を積んだ者にしか伝えられないこともあると思うので、外部指導者も重要です。連盟としては、声がかかったときに指導者を出せる体制を作っていくかなければならないと考えています。

◎全日本空手道連盟・笹川堯会長

空手は危ないと思っている人が結構いるようですが、怪我が非常に少ない武道です。また、学校の先生で空手の経験がある人が少ないため、

学校での採用がなかなか増えませんが、教えられる教員がいなければ、いつまでたつても空手の授業が行われないことになってしまいますから、文部科学省には、教員を採用するときに、武道を習うようにしてもらいたいです。

◎合気会・植芝守央理事長

合気道は、まだ40校くらいしか採用がありません。合気道の認知度が低いのが現状です。今後採用校を増やしていくためにも、指導要領や手引きを整えるといった対応は当然で

すが、地域指導者と学校の先生方との連携がしっかり取れるような環境を整え、地域の道場の愛好者を増やすなど、少しでも合気道の認知度を高め、浸透させていきたいと思っています。

◎少林寺拳法連盟・新井庸弘会長

少林寺拳法では、この1年間で23校が採り上げましたが、まだまだこれからだと思っています。やはり現場では外部指導者が入りにくいのが現状です。今後、内部の先生方に研修を受けてもらい、少林寺拳法を教えられる資格を付与するなど、そういう

た取組に力を入れていきたいと思っています。成功に向けて、組織を挙げて地道に進めてまいります。

◎全日本なぎなた連盟・佐藤浩市長

なぎなたは授業で採り上げている学校がまだまだ少ないのが現状です。しっかりと土台を作っていかなければなりません。指導者が非常に少ないので、底辺拡大という抜本的な課題を含めて、今後、方法を考えて取り組んでいかなければならないと考えています。

◎全日本銃剣道連盟・酒井健会長

全国の体育教師に銃剣道を教えられる人をいかに増やすかということが喫緊の課題です。外部指導者という方法もあると思いますが、そもそも銃剣道の認知度が低いので、それをどう広めるかが、両輪の大きな課題です。まずは授業のデモンストレーションをして理解いただけるようにするというのが一歩踏み出すための方法と考え、3月に東京でもデモンストレーションを予定しています。

◎久保公人文部科学省スポーツ・青少年局長

——武道必修化1年を迎えて

「去年、円滑な移行のために、設備、指導者、カリキュラムをしっかり準備するよう、国をあげて通知を出し、各武道団体にも努力していただいたおかげで、学校でかなり熱心に取り組んでいただきました。カリキュラム作成も先生まかせにせずに、学校全体や、教育委員会として取り組む動きが出てきました。」

また、各武道団体においても、自分たちの武道に取り組んでもらいたいということ、前向きな競争があり、これは大変好ましいことだと思います」

——柔道・剣道以外の武道採択促進のための文部科学省としての対策

「研修会を開くことができるよう予算措置をつけていますし、できるだけいろいろな機会に、9種の武道があるということを伝えるようにしています。今後は、各都道府県でど

の武道がどれくらい採択されているかという情報をオープンにして増減がわかるようにすることにより、採用の少ない武道では一層努力するという動きを加速させていきたいと思っています。また、将来的に複数の武道を採択する学校が出てくると思うので、その際に現在あまり行われていない武道も採択されるのではないかと期待しています。

高校の学習指導要領では9種目という記述がどこにも出ていませんが

ら、それもまたいずれ見直したいです。多くの種目が採択されるよう我々も努力していきます」

——今後の課題

「体育全般について言えることですが、しっかりと指導をできるように、学校の先生も外部指導者も、より一層、質を高めていくことが一番の課題です。特に導入時が大切ですので、文部科学省、武道団体、都道府県が協力していかなければなりません」

武道議員連盟総会

より良い授業のため 引き続き整備に尽力



松永光日本武道館会長



高村正彦武道議員連盟会長



山谷えり子武道議員連盟理事



北川知克武道議員連盟理事・事務局長

3月6日、武道振興大会に先立ち、武道議員連盟総会が憲政記念館で開催された。

会議は北川知克武道議員連盟理事・事務局長の司会進行で行われた。

はじめに、高村正彦武道議員連盟会長が挨拶に立ち、「今日は有意義な会にしたいと思います。よろしくお願いいたします」と述べた。

オブザーバーとして出席した松永光日本武道館会長は、「日本武道館では中学校での武道授業を成功させることに力を入れています。今後ともご支援・ご指導をお願いいたします」と挨拶した。

事務局報告として役員名簿と会計報告書の説明がなされた後、文部科学省の久保公人スポーツ・青少年局長から武道振興施策についての報告が行われた。

久保局長はまず、「昨年より中学校での武道必修が始まり、円滑な導入を図ることができました。導入が重要ですので、いろいろな手引きを

作りました。また、各学校においてカリキュラム・設備・指導者の基準が整っているかどうかを点検した上で推進するよう都道府県にお願いしています。その結果、大きな事故の報告もありません。また、部活動でもしっかりとした準備が行われるよう進めており、これから一層、学校における武道の振興が図られるものと思います」と述べ、続いて武道の振興に関する平成25年度予算案の報告を行った。報告の内容は次のとおり。

①公立中学校武道場の整備のために約45億円の予算を確保。補助率は通常の3分の1から2分の1に増やした。

②指導内容の充実としては、学校の教員に研修を受けてもらうため、武道等指導推進事業に約3億円の予算を確保した（5千万円の増額）。

③用具・教材については地方交付税措置で今後も整備を図っていく

次に、「現場の意見」として、日本武道協議会より財団法人日本相撲



会議の様子



植芝守央合気会理事長



南和文日本相撲連盟副会長



久保公人文部科学省スポーツ青少年局長

連盟の南和文副会長と、公益財団法人合気会の植芝守央理事長が、それぞれの武道の現状について報告した。

南副会長は、「中学校で武道が必修となり、全国で400以上の中学校に選択していただいております。相撲は小学生を対象とした大会の予選には約4万人が参加しますが、中学生になると人口が激減します。これは連盟の最大の課題です。中学校での授業は、相撲の楽しさ、素晴らしさを理解してもらえ、最大の機会と捉え、努力しています。指導内容は文部科学省の指導をいただき魅力的なものを作成しました。また、年に2回講習を行ってしっかり指導し、各学校に戻ってもらう予定です。用具に関しても、マット土俵やズボンの上から穿けるまわしを考案しました。授業での実態調査を行ったところ、大きな事故は皆無で、大変安全な武道であると認識されました」と述べた。

中学校での武道必修化に伴い、都道府県合気道連盟を整備し、この3月で47すべての都道府県に連盟が作られました。各連盟で講習会、錬成などを積極的に行い、より多くの方に理解をもらうことを目標としています。中学校の授業では、合気道はまだ40校程度でしか採用されていないのが現状です。各地域の教育委員会をはじめ、教育現場、世間一般への認知を深めていく必要があります。また、指導計画・指導内容についてより一層、工夫をしてまいります。国際的な面では、世界の95カ国に普及しています。今後は中国やインドなどまだ普及率の低い地域で推進し、友好親善を図ってまいります」と報告した。

最後に質疑に移ると、山谷えり子参議院議員から、「新宿区の中学校で行われた合気道の授業を見学して、武道を修養している方に学校の授業でも指導してもらえ、それは素晴らしいことだと感じました。文部科学省や武道団体の皆様には、外部指導者の充実に向けてさらに尽力いただきたい」との意見があり、閉会となった。

武道議員連盟役員名簿

- 顧問 保利耕輔（自民）
- 会長 高村正彦（自民）
- 副会長 江渡聡徳（自民） 大島理森（自民） 大畠章宏（民主）
河村建夫（自民） 鴻池祥肇（自民） 小坂憲次（自民）
塩谷 立（自民） 高木陽介（公明） 藤井孝男（維新）
- 理事長 大畠章宏（民主）
- 理事 逢沢一郎（自民） 有村治子（自民） 江田康幸（公明）
北川知克（自民） 轟木利治（民主） 羽田雄一郎（民主）
森 英介（自民） 山谷えり子（自民）
- 事務局長 北川知克（自民）

文部科学省資料

学校体育における武道の充実

中学校武道の必修化に当たり、その円滑な実施のための各種対策
―武道場の整備、指導内容と武道関係教材等の充実―

1. 施設対応 武道場の整備 ↓ 緊急5カ年で武道場の 整備促進を図る (25年度予算案) ○公立中学校武道場の整備 (4,534百万円) ※24年度補正予算1,627百万円 武道場新築：補助率 1／2 ○私立中学校等武道場の整備 (70百万円) 武道場新築：補助率 1／2 【参考】社会体育施設整備 (地域武道センター含む) 24年度補正予算案5,942百万円	2. 指導者対応 指導内容の充実 ↓ 指導者における 指導力の向上を図る (25年度予算案) ○武道等指導推進事業 (302百万円) ○運動部活動地域連携再構築事業 (272百万円) ○その他（武道講習会の開催等）	3. 用具対応 武道関係教材等の充実 ↓ 中学校における 武道防具等の整備を図る ○義務教育諸学校における新たな教材整備計画 (地方交付税措置) ・「教材整備指針」に基づく教材の整備に必要な経費を平成24年度から10年間地方財政措置(例)柔道畳、剣道防具一式等
--	--	---

武道の振興について

文部科学省スポーツ・青少年局

25 年度予算案 52 億 3,397 万円

1. 学校における武道指導の充実

(1) 武道場の整備

46 億 0,413 万円

平成 24 年度から中学校で必修となった武道を円滑に実施できるよう武道場の整備を促進。

○公立中学校武道場の整備（学校施設環境改善交付金）

45 億 3,400 万円

※平成 24 年度補正予算案：16 億 2,700 万円

○私立中学校等武道場の整備（私立学校施設整備費補助金）

7,013 万円

※公立・私立中学校ともに、新築の場合の補助率を 1/3 から 1/2 に引き上げ。

【参考：社会体育施設整備（地域武道センター含む）（学校施設環境改善交付金）】

平成 24 年度補正予算案 59 億 4,200 万円

※平成 24 年度補正予算案より、社会体育施設（地域武道センター含む）の耐震化事業を制度創設。

※平成 25 年度についても、学校施設環境改善交付金において地域武道センターの整備を支援予定。

(2) 指導内容の充実

○武道等指導推進事業

3 億 0,208 万円

地域の指導者の技術及び安全に関する専門的な指導力の活用方策や、派遣する競技団体等の支援体制の強化に関する実践研究を実施。また、教員を対象とした安全指導の充実を図るための取組を推進。

○文部科学省等が実施する武道講習会

（独）教員研修センターや武道関係団体との共催により、体育担当教員や武道の部活動指導者を対象として、各地域のリーダーとなり得る教員を養成するための武道講習会を実施。

○運動部活動地域連携再構築事業

2 億 7,193 万円

運動部活動等への地域スポーツ人材の活用等についての実践研究を実施するとともに、多くの生徒が参加する機会を確保するための地域と連携した新たな形態等について実践研究を実施。

【参考：都道府県教育委員会における取組】

・都道府県教育委員会が実施する武道講習会

各都道府県教育委員会が、武道の指導経験の浅い体育担当教員を対象とした基本的技能習得のための講習会や、体育担当教員等を対象とした講習会を実施。

(3) 武道関係教材等の充実

平成 24 年度から、10 か年にわたる「義務教育諸学校における新たな教材整備計画」に基づき、所要の地方財政措置が講じられている。

2. 武道団体への支援等

(1) (財) 日本武道館への補助

5,583 万円

日本武道館が実施する古武道保存事業、青少年武道錬成大会、武道指導者講習会及び武道国際交流事業に対して補助。

(2) (独) 日本スポーツ振興センターによる助成

スポーツ振興基金やスポーツ振興くじ等を通じて、団体の行う選手強化活動や武道教室等の事業などに助成。（平成 24 年度配分額）3 億 2,214 万円

好評発売中



スポーツドクター **辻 秀一** 著
四六判・上製・248 ページ

武道やスポーツは「医療である、芸術である、コミュニケーションである、教育である」とする筆者が、指導者のために書いた良きハンドブック。ぜひ、ご一読を。



主な目次

- 第1章 「文武両道」の人間教育
- 第2章 真剣勝負を楽しみ、人間的成長を図る
- 第3章 「セルフイメージ」という心のエネルギー
- 第4章 トップアスリートに学ぶ「社会力」
- 第5章 たかが目標、されど目標
- 第6章 「武士道書」に学ぶ
- 第7章 子どもたちの「社会力」を育てる
- 第8章 「オンリーワン」の子どもを育てる

武道・スポーツの真髄

ほんとうの価値の伝え方

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)

(B5判・上製・DVD付・336頁)

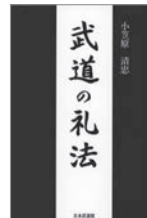


武士道に学ぶ

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



<増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

(四六判・上製・220頁)



体験武道（相撲）

国際武道文化セミナー The 25th International Seminar of Budo Culture

「武道の国際化」をテーマに開催 34 カ国 108 名が参加

第25回国際武道文化セミナー（主催＝日本武道館、後援＝文部科学省・日本武道協議会、協力＝国際武道大学）は、3月8日～11日に3泊4日の日程で、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターと国際武道大学で開催された。

本セミナーは、在日外国人武道修業者を対象に武道の技術・知識などの理解を深めることにより、武道を通しての親善と伝統文化の国際的発展に寄与する目的で行われている。今回は「武道の国際化」をテーマにして実施され、世界34カ国から108名の修業者が参加した（前回より22名増）。武道9種目と古武道の実技研修や武道体験、講義、討論会などのカリキュラムが組まれ、参加者は武道を学びながら、互いの交流を深めた。

■初日

午後2時30分に研修センター第一研修室で開校式が行われ、主催者を代表して三藤芳生日本武道館・理事事務局長が「4日間にわたるセミナーは盛りだくさんの内容で予定されています。講義・実技は、日本を代表する立派な先生方が担当します。皆さんが武道の真髄に触れ、講師の先生方との交流、参加者同士の触れ合いが深まることを祈念します」と挨拶。次に、講義講師・専門委員・助手が一人ずつ紹介された。

その後、村上清全日本柔道連盟事務局長の講義「国際柔道事情『日本柔道』と『フランス柔道』」が行われた（要旨後述）。講義の後、参加者は普段稽古している種目の実技研修で汗を流した。

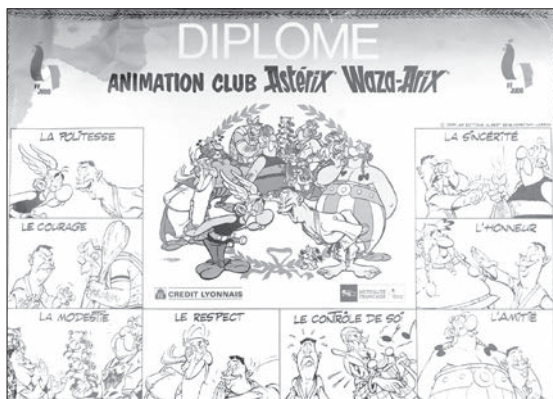
◇ ◎講義「国際柔道事情『日本柔道』と『フランス柔道』」（村上清講師）

まず、20年間フランスで柔道指導に携わった経験を語り、日本での指導方法を無理に当てはめるのではなく、文化の違いを踏まえた指導方法を考えたことで、競技力の向上を図ることができたと説明。参加者に、



参加者全員での記念撮影

写真右は柔道規則8カ条を少年向けに解説した掛け軸。
写真左はフランスの人気漫画「アステリックス」の作者が作画。柔道衣装で8カ条を実践するキャラクター「ワザアリックス」のモデルは村上講師。よく似ている



村上清講師

武道だけではなく日本の習慣も勉強してほしいと述べた。また、武道の礼について触れ、礼は「心」と「動作」の二つが合わさって表現されるものであることを強調した。

次に、嘉納治五郎の生涯をスライドを交えて解説。柔術を学んだ嘉納がスポーツと教育という側面を取り入れて柔道をつくりあげたこと、オリンピック正式種目への道のりなどを説明した。

最後に、フランスでの柔道普及の実態を紹介。フランス柔道連盟は、柔道の教育面を前面に出し、イメージアップを図りながら子供を主体として人口を増やし、現在57万人もの登録者（日本の約3倍）がいると述べた。具体的には柔道規則8カ条（礼儀・勇気・誠実・敬意・謙虚・尊敬・自己管理・友情）を設け、それを学ぶための掛け軸・漫画・手帳を作成していることなどを紹介した。

▽質疑応答

Q 「フランス柔道連盟の会員が持つ柔道手帳の表紙になぜJUJITSUと書いてあるのか」

A 「フランス柔道連盟には、合気道や相撲など、柔道以外の武道も含ま

れ、総称としてJUJITSUという言葉が用いられている」

Q 「海外の柔道はレスリングに似ていると言われていることについて、どのように感じているか」

A 「それぞれの国で柔道のような競技があり、それらの経験者が柔道を学んで試合に出ていることが理由であらう。国際柔道連盟（IJF）も足を取る技を制限するなどのルール変更により、対策を講じている」

▽参加者の感想

「『心』に関する内容まで話が広がり、興味深かった」

「柔道の経験はないが、指導者としての考え方が参考になった。フランスでの普及活動・歴史が勉強できてよかった」

■2日目

午前9時から、国際武道大学で「武道の魅力と国際化」をテーマに、窪田史郎（弓道）・杭田要（少林寺拳法）両専門委員の発表があった（要旨後述）。次に、栗原茂夫全日本空手道連盟副会長の講演「空手道の国際化―その現状と課題―」が行われた（要旨後述）。

午後は研修センターで講師演武会、体験武道、前日に引き続き実技研修が行われた。

相撲の体験武道では、四股・すり足・塵手水といった種目特有の伝統的所作と基本動作を学びながら、最終的には専門委員助手と相撲を取るなど、知識・技術両面でのバランスのよい指導が行われた。参加者の好奇心も相当なもので、「ことあるごとに自分の廻しを右手でポンと叩くのは何故か」といった細かな所作についての質問もあった。



◎専門委員発表「武道の魅力と国際化」

○弓道・窪田史郎専門委員

弓道の魅力を(修業の)初期段階、成長・発展期、充実期、高段位・指導者の段階に分けて述べた。「見た目や所作の美しさ」「離れの高揚感」「的中の感覚」「一糸乱れぬ動作の中に加わった喜び」「練習での充実感」「反省から学ぶ慎み」「正しい射から発現する的中」「弓道が真・善・美を求めて進む人間形成の道と知ること」などを具体例として挙げた。

国際化については、2006年に国際弓道連盟が設立され、現在は18

カ国が加盟、日本を除く世界の弓道人口が3500名であることを紹介した。また、2010年に第1回世界大会が日本で開催され、2014年にはパリで第2回大会が開かれる予定であると述べた。そして、自身の海外指導経験から、海外における普及の課題は「場所・用具・言葉・指導者」であると語った。

○少林寺拳法・杭田要専門委員

少林寺拳法は大学から始め、当初は「蹴り・突き・抜き・投げ・固め技」に魅せられたが、次第に創始者宗道臣の「拳禅一如」「力愛不二」「一人ひとりの人間の質を高め、社会を良く変えていこう」という教えの大切さを知ることになったと述べた。

これらの教えは民族や国家、宗教を越えて受け入れられつつあり、少林寺拳法世界連合という組織では、世界各地の連盟や支部との諸連絡等を行い、指導員の研修会なども支援していると紹介した。

海外における普及の課題は①日本と習俗習慣が異なること、②宗教の違い、③その国の法律、④翻訳(通訳)の正確さなどであり、その中で正しく技術や教えを理解してもらう

ことに腐心していると述べた。

▽参加者の意見・感想

「正しい弓道を世界に広めたいと考えていることがよくわかった。日本の伝統文化の大事な点を、外国人に伝える必要性を感じた」

「国際弓道連盟の加盟国数はもう少し多いと思っていた。そもそも設立が遅かったのではないか」

「少林寺拳法と仏教の関わりに興味が湧いたので、今後調べてみたい」



◎講義「空手道の国際化―その現状と課題―」(栗原茂夫講師)

まず始めに昨年フランスで行われた世界大会のダイジェスト映像を約3分間視聴した。

映像を見た後、空手道はオリンピックの正式種目になることを目指していること述べ、これまで候補に上がりがながらも落選してきた経緯を説明した。また、2020年に東京都が開催地として立候補していることに伴って、世界空手連盟(WKF)のエスピノス会長が本年1月に来日し、笹川堯会長と共に、下村博文文部科学大臣のもとへ訪問。オリンピック正式種目化への支援を要望した

講師演武会の様子(弓道)



ことなどの取組を紹介した。

次に、空手道の普及状況に触れた。空手道の人口は世界で6000万人ともいわれ、WKFには、185カ国が加盟していると述べた。歴史的には、戦後に日本の指導者がヨーロッパを中心に、その地に骨を埋めるつもりで普及したのが今日の状況に

つながっていると説明した。さらに、様々な競技大会の開催、カンフー映画の影響なども世界に広まった要因であるとした。

そして、競技面での工夫が普及に大きくつながっていることを強調し、公平でわかりやすく安全性の高いルールの設定と審判の育成を行っているとした。また、競技ばかりではなく、武道的側面も備えていることに魅力があると語った。具体的には、青少年の健全育成や心の教育が空手道の中に含まれ、国内では中学校で武道が必修化され、空手道の授業も行われていることなどを紹介

した。ほかにも、空手道の形は日本の無形文化であると述べ、世界大会の形競技には多くの国が参加し競い合っていると説明した。

最後に、「世界の修業者に日本の礼節を学んでもらいたい。普及のために力を合わせてほしい」と述べて締めくくった。

▽質疑応答

Q「オリンピック種目のテコンドーとの違いは何か」

A「テコンドーは足技中心だが、空手道は千変万化の状況で突き技も多く使う。WKFはその特徴がより現れるよう、これまでルールの改変を続けてきた」

Q「空手道の大会において、日本と海外の差を感じる点が3つある。①改正されたルールを実施するまでの時間②防具の調達③蹴りに対する判定の仕方、である。これをどう感じているか」

A「新ルールのための講習会を開き速やかに実施できるようにしている。防具の種類は大会により異なるが、安全のためにも揃える必要がある。蹴りだけではないが、強打による事故を未然に防ぐためにも、きち



んとコントロールされた技にポイントを与えている」

▽参加者の意見・感想

「オリンピックの正式種目化を目指すには、民間レベルでは限界がある。欧米では国を挙げてスポーツ団体を援助している場合が多い」

「競技を紹介するビデオに、試合場で叫びながらガッツポーズをしたり、勝利して踊っている選手の姿が映し出されていた。その場面で参加者から笑いが起きたが、理由を考える必要がある。空手道の武道的な面をもっと大事にしてほしい」

■3日目

午前は国際武道大学で「武道の国際化」をテーマに全体討論会（要旨後述）、午後は研修センターで体験武道と実技研修が行われた。

体験武道は2日目に1コマ（70分）、3日目に2コマ行われた。人



杭田要専門委員



窪田史郎専門委員



栗原茂夫講師



講師に質問をする参加者

実技研修・体験武道



柔道



なぎなた



剣道



合気道



少林寺拳法



弓道



銃剣道(短剣道)



相撲



空手道

◇ 全体討論会
座長の作道正夫専門委員が進行を務める中、始めに、各種目の国際化に関する取組について現状報告が行われた。

▽柔道・石井兼輔専門委員
嘉納治五郎師範は、早い段階から国際化を積極的に進めていた。1951年にはIJFが設立され、その後オリンピック種目になった。近年になって商業・勝利至上主義が肥大

◇ 夜はフェアウェル夕食会が催され、専門委員・参加者が武道談義に花を咲かせ、懇親を深めた。

◇ 「弓道は、見た目の美しさ、なぎなたは長物に興味が湧く。参加者は海外でなかなか経験できない種目に触れてみたいのだと思う。空手道と柔道が少ないのは、海外で人気が高く、経験者が多い証拠」

◇ 気が高かったのは弓道となぎなた(それぞれ延べ48人、45人が参加)。空手道、柔道の選択者は少なかった(それぞれ延べ10人、14人が参加)。このことについて、参加者の一人はこう語った。

「弓道は、見た目の美しさ、なぎなたは長物に興味が湧く。参加者は海外でなかなか経験できない種目に触れてみたいのだと思う。空手道と柔道が少ないのは、海外で人気が高く、経験者が多い証拠」

第25回 国際武道文化セミナー

The 25th International Seminar of Budo Culture

主催：財団法人 日本武道館 後援：文部科学省 日本武道協議会 協力：学校法人 国際武道大学



全体討論会で壇上に並ぶバネリストたち

化したため、基本理念に立ち帰る動きが見られるようになってきた。教育的側面を前面に出し、人間育成を目指す流れになっている。

▽剣道・井島章専門委員

戦前は日本人が移住したアメリカ・ブラジル・朝鮮・台湾で稽古が行われていた。1970年には国際剣道連盟が設立され、同年に第1回世界選手権大会が開かれた。現在の加盟は52カ国。課題としては各国剣道連盟発展のための援助、講習会・国際大会の開催、段級位審査基準の制定、審判技術の向上、指導者の養成、用具の援助などが考えられる。

▽弓道・窪田史郎専門委員

弓聖・阿波研造範士に入門したドイツの哲学者、オイゲン・ヘリゲル氏の著書『弓と禪』（1948年刊）がドイツでベストセラーになったこと。阿波研造範士の高弟・安澤平次郎氏が1949年に渡欧して演武を行ったこと。この2つが契機になり、欧州で愛好者が増加した。施設設置、弓具調達、言語の壁、指導者育成が課題。

▽相撲・伊東良専門委員

大相撲で外国人横綱が誕生してい

るように、国際化は進んでいる。アマチュア界も同様で、1992年に国際相撲連盟が発足し、同年第1回世界選手権大会が開催されている。現在は87カ国が加盟。課題は、各国に指導者が少ないこと、場所等の環境が整っていないことが挙げられる。オリンピック正式種目化を目指しているの、これらの課題を克服しなければならない。

▽空手道・前田利明専門委員

世界で普及した要因は、ルールを整備して競技化したこと、用具を必要としないことなど。1968年のメキシコオリンピックでは18カ国が招待され、「メキシコオリンピック大会招待世界空手道大会」が開催される。1970年には世界空手道連合（WUKO）が結成された。WUKOは、1985年にIOC公認団体として承認される。1993年には世界空手連盟（WKF）と改称。現在188カ国が加盟。競技の発展は目覚ましいが、問題は勝つことが全てになってしまう点。勝って喜ぶたいのはわかるが、ガッツポーズではなく、相手への尊敬と感謝の気持ちを

持つてきちんと礼をして試合を終え

るようにしたい。ここまで世界に広まった空手道を日本が考えているとおりにするのは難しいが、文化とスポーツの両面で国際的に発展させなければならない。

▽合気道・小林幸光専門委員

海外への普及は1950年代から始まり、1976年に国際合気道連盟が結成された。現在47カ国が加盟。国際合気道大会は4年に一度行っている。課題は以下の2点。①生涯武道として年配の会員は増加しているが、若手層の会員の伸びがない②同国内で別個に出来た道場同士が連盟としてまとまりにくい。

▽少林寺拳法・外山雅一専門委員助手

1960年前後にインドネシアの留学生が来日し、大学の少林寺拳法部に所属した。帰国後、インドネシア少林寺拳法連盟を設立。1972年には日本、インドネシアを含む8カ国により国際少林寺拳法連盟が発足した。1974年、発展的に少林寺拳法世界連合へと移行、現在、日本を含めて37カ国、3384支部で修練されている。創始目的の正しい継承、教育システムの改革、指導者の質の向上などが課題。

▽なぎなた・木村恭子専門委員

1973年にアメリカが全日本なぎなた連盟の準加盟となったことが組織としての国際化の始まり。1990年には国際なぎなた連盟が発足。現在、14カ国が加盟している。

2011年には第5回世界大会を開いた。海外の特徴は、男性修業者が多いこと。課題は用具の入手・運搬が困難なことで、指導者の不足。競技では勝利至上主義が広がっているのが問題。海外修業者から「スポーツ化したものには興味が湧かない」という意見をもらったことがある。

▽銃剣道・佐藤亨専門委員

銃剣道は津田一伝流継承者である津田教修が、宝蔵院流槍術を参考にして1892年に確立させたものである。1956年には全日本銃剣道連盟が設立。海外への普及は、戦中に戦技とされていた経緯から困難を極めた。近年、連盟は海外への指導者派遣事業を開始し、2010年には単独事業として初めてベラルーシ共和国へ指導者を派遣した。ほかにも外国人を対象にした指導者育成事業、海外普及のための用具の補助などを行っている。体の大きな外国人

にあうサイズの用具開発や指導者の養成、英語版指導書の作成、連盟内における国際委員会の設置などがこれからの課題。



◇ 各種目の現状報告が終わると、座

長の作道専門委員が「文化性と競技性の間で揺れ動いているのが各種目の大きな課題。近代オリンピックの中で、勝利至上主義・商業経済主義に文化が文明化されていく際、大きな変容がある。それを踏まえて活発な意見を交わしたい」と述べ、参加者からの意見を募った。

▽ロナルド・フィニーさん(アメリカ)

「道」という考えの中で、勝利至上主義をどう捉えるのか。

▽弓道・窪田専門委員

若い方は試合に勝ちたいという気持ちが多く、特に学生の大会ではそれを目指している。一方、武道家にも大会があり、そのトップが全日本選手権大会である。大会では(的中)だけではなく、体配・射形の採点が入れられている。武道性をもった弓道がピラミッドの頂点であり、試合に寄っていた選手たちもそこに集約されていく。

▽ランディ・チャネルさん(カナダ)

昨日、空手道の栗原講師の講義時にパリ世界大会の紹介ビデオを見たが、その内容についてどのように感じているのか。

▽空手道・前田専門委員

空手道は、競技として素晴らしいものがある。オリンピック正式種目化を目指す中、これだけの大会を行っているとは伝えることが必要。礼節の指導はいつもしているが、勝利した選手が我を忘れてしまう場面もみられる。武道と競技を両立させていくことのジレンマはある。

▽柔道・中村勇専門委員

IJFも同じようなビデオを出しており、選手がガッツポーズをしている場面もある。2011年の世界選手権大会では、選手が観客に勝利をアピールしたことがあった。IJFはこれに対して緊急理事会を開き、その選手の国の代表監督に指導をした。世界でもこれを何とかしなければならぬという考えがある。以前に比べれば武道性に対する意識が高くなっているのは事実。

▽イタマル・ザドフさん(イスラエル)

日本の高段位の先生は、海外でど



全体討論会の様子

のような考えを持って指導しているのか。

▽少林寺拳法・外山専門委員助手

相手は倒す対象ではなく仲間と考え、自分に克つことを目的にするのが武道。これを踏まえて各国の文化を大切にしながら、指導や考えを合わせるのが大事である。

▽ランスガトリングさん(アメリカ)

クールジャパン戦略に武道を入れていくのかどうかを知りたい。

▽少林寺拳法・外山専門委員助手

日本の漫画やアニメ「かわいい」

文化などをクールジャパンとして世界に広める動きがあるのは知っている。漫画などが武道の入り口となり、その後、武道の本質を学んでもらえればよいと個人的には思う。



最後に、座長の作道専門委員が参加者に感謝の言葉を述べ、3時間にわたる全体討論会を締めくくった。



松浦寛澄宗家が技の特徴や意味を丁寧に解説

■最終日

9時より竹生島流棒術の講義・模範演武、体験会が行われた。まず、松浦寛澄十八代宗家が流派の歴史などを紹介した。その中で技の特徴を「手数を最小限にし、一瞬で急所を攻撃すること」と述べ、棒は刃物と打ち合うとささくれだち、滑らせて扱うことが出来なくなるので、機先を制して急所に打ち込み、勝負を決めるのが重要であると語った。

模範演武では、表の形と裏の形を6本ずつ披露した。

体験会では、参加者が道場いっばいに広がり、礼法、棒の振り方、構



体験会の様子

えなどを学んだ。相対稽古も行われ、5人の指導者の前にそれぞれ列を作ると、大きな気合いとともに打ち込む姿が見られた。

終了後、参加者から「棒は合気道で使うものよりも長く、剣道のように打ち込む動作をしたところに興味を持った」「棒を引つさげた状態から、いきなり喉を突く動作が実践的だと感じた」などの感想があった。

閉講式では、参加者を代表してランディ・チャネルさん（カナダ）に修了証が授与された。最後に吉川英夫日本武道館振興部長が主催者挨拶を述べ、全日程を終了した。



参加者を代表して修了証を受けるランディ・チャネルさん。第1回からの連続参加記録を持つ

【講義講師】村上清（全日本柔道連盟事務局長）、栗原茂夫（全日本空手道連盟副会長）、松浦寛澄（竹生島流棒術十八代宗家）

【実技講師（専門委員・助手）】

▽柔道Ⅱ中村勇六段、石井兼輔七段、越野忠則六段、矢崎利加女子五段

▽剣道Ⅱ作道正夫範士八段、井島章教士八段、丸橋利夫教士八段、岩切公治教士七段

▽弓道Ⅱ窪田史郎範士八段、坂本武彦教士八段

▽相撲Ⅱ伊東良四段、橋本拓実三段、浜町明太郎三段

▽空手道Ⅱ前田利明教士七段、稲田保久三段

▽合気道Ⅱ小林幸光七段位、金澤威七段位

▽少林寺拳法Ⅱ杭田要正範士七段、外山雅一正範士七段

▽なぎなたⅡ木村恭子教士、太布文子錬士

▽銃剣道Ⅱ佐藤亨範士八段、小川功教士八段

【通訳】アレキサンダー・ベネット、岩田ヘレン、ショーン・オコネル、ブルース・フラナガン

好評発売中

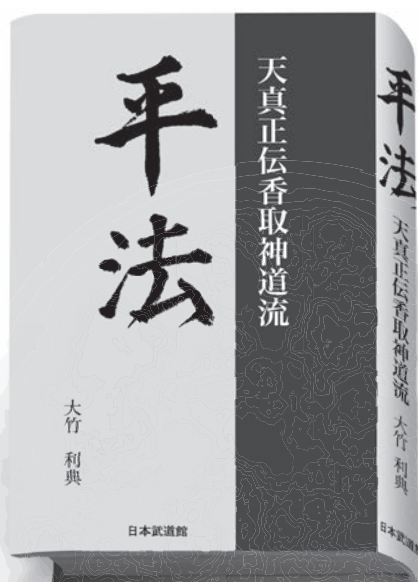
平法

天真正伝香取神道流 師範

大竹利典 著

天真正伝香取神道流

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。



(四六判・上製・296頁)

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。
さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

目次

- 序 章 香取神宮御由緒
 - 第一章 歴史篇
 - 第一節 経津主大神の真伝、「天真正伝香取神道流」
 - 第二章 修行篇
 - 第一節 入門
 - 第二節 林先生に師事
 - 第三節 香取神道流最初の異国の門弟
 - 第四節 流祖生誕六百年記念祭
 - 第三章 技術篇
 - 第一節 剣術
 - 第三節 居合術
 - 第四節 棒術、薙刀術、槍術、手裏剣術
 - 第五節 柔術
 - 第二節 忍術
 - 第四章 軍学兵法篇
 - 第一節 遁甲術
 - 第二節 刀剣と密教
 - 第五章 思想篇—全ての修行者へ
 - 第一節 修行者の心得
 - 第二節 兵法は平法なり
- 平和を願う偉大なる教え



◎ご注文はインターネット Amazon.co.jp にて。全国の書店でもご注文いただけます。
◎お急ぎの方は、下記お問い合わせ先にご連絡ください。送料無料で販売いたします。



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



（B5判・上製・箱入・462頁）

古流武術研究家

横瀬

知行 著

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介！

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。

第1回全国弓道指導者研修会を開催



柴田猛主任講師（右手前）と参加者による質疑応答

全国から88名が参加

第1回全国弓道指導者研修会（主催Ⅱ日本武道館、全日本弓道連盟）が、2月22日～24日の3日間にわたり、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて、全国から88名が参加し、開催された。

本研修会は、全国で弓道を指導する中学校、高等学校の教員及び地域指導者を対象に、伝統と文化に立脚した理論と実技研修によって、専門的な知識・技術・指導法の充実を図り、弓道指導者の養成と資質向上に資することを目的としており、今後毎年開催される。

初日、研修会は午後2時に開講し、はじめに主催者を代表して、岡崎廣志全日本弓道連盟業務執行理事と、三藤芳生日本武道館理事・事務局長が挨拶し、続けて講師紹介のあと、講師を代表して柴田猛主任講師が挨拶を行った。

開講式が終わると、記念撮影を経



第一回
全国弓道指導者研修会



全体講義の様子



ジェローム・シュシャン
特別講師



岡崎廣志
全日本弓道連盟業務執行理事



早朝稽古



基本体研修

て、ジェローム・シュシャン特別講師による「フランス人が感じた日本弓道と日本文化」と題した講演が、弓道五段のご自身の体験を元に行われた。次に、柴田猛主任講師による「安全指導」の全体講義があり、最後は大道場で「基本体研修」「弓具指導」を行い、初日の研修を終えた。2日目は、午前6時30分から1時



初心者には丁寧に指導



充実した実技研修

間、大道場で早朝稽古を行い、朝食を経て、9時からは、初心者・社会体育指導者・学校部活動・学校授業対応の4班に分かれての目的別研修を行った。この目的別研修は昼食を挟み、夕方5時30分まで行われ、それぞれの目的、参加者の弓道レベルに合わせた細かなスケジュール設定が講師陣によって組まれた。

夕食後、午後7時30分からは、中学校授業の実施報告や質疑応答など、情報交換会（分科会）があり、活発な意見交換を行った。

3日目は、早朝稽古、朝食のあと、午前8時30分から、それぞれ分かれて実技研修を行った。最後は研修者代表射礼によって締めくくり、閉講式をもって、全日程を終了した。

◇参加者感想Ⅱ岩手県・小川睦子氏

（盛岡市立城東中学校保健体育科）
普段は外部指導者と共に授業を行っている。本人はバスケットボールが専門で弓道は初心者とのこと。

「自分がまず出来るようになりたくてよい機会だと思い、参加しました。頭では理解しても実際は難しく、生徒の立場でポイントをつかむことが出来ました。今後に活かしたいと思います」

【講師】

▽特別講師Ⅱジェローム・シュシャン
（国際弓道連盟理事・五段）

▽講師Ⅱ柴田猛範士八段、戸羽久之範士八段、張替謙一教士八段、桑田秀子教士八段、渡辺鉄哉教士七段

▽助講師Ⅱ松本代志博教士七段、森茂行教士七段、高橋文彦教士七段

今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村民雄

好評発売中

今、なぜ
武道か

文化と伝統を問う
中村民雄

日本武道館

目次

第1章 今、なぜ武道か

- 1 今、なぜ武道か
- 2 武道の普遍性を問う
- 3 たたかひの原理
- 4 武と武道
- 5 格技と武道
- 6 武道教育
- 7 道と人間形成
- 8 武道の近代化
- 9 武道の伝統
- 10 わざの伝承
- 11 型と競技
- 12 稽古と練習(トレーニング)

第2章 武道の身体技法

- 1 自然体
- 2 すり足とナンバ
- 3 正坐
- 4 蹲踞
- 5 礼
- 6 坐礼
- 7 右と左
- 8 中
- 9 間と間合
- 10 死に太刀
- 11 掛け声
- 12 勝負観

第3章 武道の施設・用具

- 1 道場
- 2 武徳殿
- 3 柔道場と畳
- 4 弓道場
- 5 土俵
- 6 木刀と袋しない
- 7 竹刀
- 8 タンボ槍となぎなた
- 9 槍術用の防具
- 10 剣術用の防具
- 11 稽古着と稽古袴
- 12 柔道衣と色

第4章 武道の制度・技の体系

- 1 試合
- 2 審判
- 3 段位制
- 4 称号
- 5 乱捕
- 6 剣術六十八手
- 7 柔道の技の体系
- 8 剣道の技の体系
- 9 弓道の技の体系
- 10 なぎなたの技の体系

第5章 武道の再生に向けて

- 1 「伝統的な行動の仕方」とは
- 2 武道の再生に向けて

(四六判・上製・370頁)

知っているようでよく説明できない武道のいろいろな事柄を、古今の豊富な資料をもとにわかりやすく説いた、武道事典ともなる一書。

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）

武道の全容をこの一冊に集大成！



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

『日本の武道』の英文版 (DVD 付)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

武道における礼法を小笠原流宗家が直々に指南



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

（四六判・上製・278頁）

武道をわかり易く描いた教養マンガ



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）

希代の弓人阿波研造の人物伝



霊箭 阿波研造物語

小学校教諭

馬見塚昭久 著

（四六判・上製・320頁）

日本人が拠り所としてきた価値観を詳説



日本の元徳

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

（四六判・上製・334頁）

『五輪書』などの代表的な武道伝書を詳解



武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

（四六判・上製・348頁）

著者の半生をたどり、弓道の魅力に迫る



弓道 その魅力

山口大学名誉教授

岡村豊太郎 著

（四六判・上製・272頁）

子どもを育む武道の教育力を詳説



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）

武道界の先達の熱きメッセージ



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



評価委員と柔道教室の子どもたちが相互に礼（TOKYO2020）

- Tokyo 2020

日本武道館を視察

国際オリンピック委員会（IOC）評価委員会の2020年夏季オリンピック開催地立候補都市への視察のうち、東京への視察が3月4～7日に行われ、5日に評価委員会のメンバー11名が日本武道館へ視察に訪れた。

当日は松永光日本武道館会長、白井日出男日本武道館理事長、上村春樹全日本柔道連盟会長を始めとした日本武道協議会加盟団体から派遣された約150名や、日本オリンピック委員会（JOC）加盟団体より約100名、近隣の小・中学生約100名の計350名が日本武道館西口玄関に並び、クレッグ・リーディ評価委員会委員長（イギリス・IOC副会長）以下11名の評価委員を乗せたバスを、手に持った評価委員の国の国旗を振ったり、拍手で出迎えた。

会場内に入ると、柔道教室のために待機していた春日柔道クラブの子どもたちがアリーナに敷かれた畳に整列し、1階席の評価委員と対面した。「礼！」という大きな声の号令がかかると、相互の礼を交わした。評価委員は1階西観客席に座り、



武道関係団体等約 350 名が出迎えた (TOKYO2020)

IOC Evaluation Commission Visit

IOC 評価委員が

日本武道館建設の経緯や選手村からのアクセス、立地、環境について澤崎道男東京都スポーツ振興局招致計画担当課長より説明がなされた。

質疑応答の後、シドニー五輪柔道男子100kg級優勝の井上康生全日本男子柔道監督が挨拶に立つと、評価委員からは大きな拍手が起こった。

「ようこそ東京へお越し下さいました。私自身はオリンピックに対して大きな夢を持って、それに向かって精一杯稽古に励み、メダルを手にすることができました。ぜひともこの東京でオリンピックを開催していただき、子どもたちに大きな大きな夢を与えていただければと心から思っています。」

今は、全日本の監督を務めておりますので、もし東京オリンピック開催が決まれば、選手たちが最高のパフォーマンスをこの場でできるように全力を尽くしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます」

約15分の視察を終えると、評価委員はバスに乗り込み、集まった約350名に見送られて、次の視察会場である国技館へ向かった。

待望の 単行本化 嘉納治五郎と講道館の高弟をはじめとする 日本人の手による柔道の国際的普及の歴史



柔道の国際化

— その歴史と課題 —

講道館柔道を創始し、自ら柔道を世界に広めるため尽力した嘉納治五郎。嘉納の意思を受けて海外雄飛した、講道館を代表する高弟たち。彼らは如何に、どのような思いで普及に取り組んだのか。
数々の資料を繙き、柔道が世界的な競技となるまでの、先達の足跡をたどる。そして、そこから見えてきた運動文化の国際的普及における課題とは。

(四六判・上製・552頁)

財団法人講道館図書資料部長

村田直樹 著

題字 講道館名誉館長・嘉納行光



第1章 普及への意思

柔道史の原点
欧州教育事情視察

第2章 海外への進出

米国大統領の入門
新大陸へ派遣第2号
異種格闘技に生きた前田光世

英国柔道の基礎―武道会
武道会を訪れた嘉納と高弟会田
小泉が語る英国柔道史

仏蘭西への道
メトード・カワイシとは何か
駐仏日本国大使 杉村陽太郎

続々と仏蘭西へ
海外より見た柔道―独逸通信
東洋への進出
異文化理解の容易な道

第3章 国際柔道連盟の結成

国際柔道連盟設立の前夜
嘉納逝き連盟成らず

欧州から国際柔道連盟の結成
講道館長、国際柔連会長に就任
世界柔道選手権大会開催

東京五輪招致成功
東京五輪と正式種目柔道

パリへの仇
体重別に勝ち、無差別に散る

第4章 道とスポーツ

日本の後退 欧州の前進
変わり行く柔道
不易流行

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

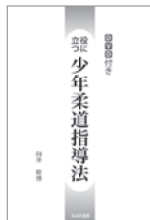


BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

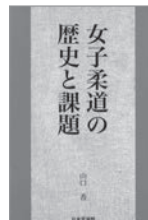


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

（A5判・並製・DVD付・414頁）



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学大学院准教授

山口 香 著

（四六判・上製・412頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）

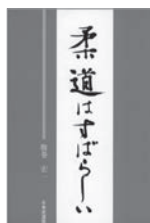


武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

（四六判・上製・310頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・292頁）